

## 2016年度(平成28)年度 入学生対象

対象入学年度	対象学科	変更箇所	変更前	変更後	変更年月
2016年度入学生	全学科	履修制限単位		履修制限に含まれない科目に、「海外英語研修」(2単位)を追加。	2016年4月
2016年度入学生	機械システム工学科	卒業・進級要件 ※別紙①参照	(3)進級に係わる取得単位(最低)数表 <卒業> 必修科目単位数 74単位 選択必修科目単位数 6単位 卒業要件総修得単位数 124単位	(3)進級に係わる取得単位(最低)数表 <卒業> 必修科目単位数 74単位 選択必修科目単位数 6単位 H) 卒業要件総修得単位数 124単位  H)教養教育科目の選択必修単位数4単位+学部内共通科目の選択必修単位数2単位	2018年7月25日
2016年度入学生	物質化学科	卒業・進級要件 ※別紙②参照	(3)進級に係わる取得単位(最低)数表 <卒業> 必修科目単位数 84単位 選択必修科目単位数 10単位 卒業要件総修得単位数 124単位	(3)進級に係わる取得単位(最低)数表 <卒業> 必修科目単位数 84単位 選択必修科目単位数 10単位 F) 卒業要件総修得単位数 124単位  F)教養教育科目の選択必修単位数4単位+学部内共通科目の選択必修単位数2単位+学科固有科目の選択必修単位数4単位	2018年7月25日
2016年度入学生	物質化学科	卒業・進級要件 ※別紙②参照	(1)卒業要件単位(最低)数表 注意事項 B) グリーンケミストリー関連科目より、4単位修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。	(1)卒業要件単位(最低)数表 注意事項 B) グリーンケミストリー関連科目より、4単位修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。 <b>なお、4年次進級時の取り扱いは、「進級に係わる取得単位(最低)数表 注意事項D)」のとおりとなる。</b>	2018年11月9日
2016年度入学生	物質化学科	卒業・進級要件 ※別紙②参照	(3)進級に係わる取得単位(最低)数表 注意事項 D) 必修科目の全て学部内共通科目・学科固有科目の選択科目の選択必修との合計単位とする。(教養教育科目の選択必修の単位は含めない。)	(3)進級に係わる取得単位(最低)数表 注意事項 D) 必修科目の全て学部内共通科目・学科固有科目の選択科目の選択必修との合計単位とする。(教養教育科目の選択必修の単位は含めない。) <b>なお、グリーンケミストリー科目の余分に取得した単位(4科目のうち3科目以上)は、4年次進級の際には「必修科目単位数」と「選択必修科目谷数」を合わせた単位数に換算する。</b>	2018年11月9日

3-1. 卒業・進級の要件 (2015~2017年度入学生)

(1)卒業要件単位 (最低) 数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目をあわせて124単位の修得が必要である。

区 分		単位数	
教養教育科目	必修	仏教	4
		英語	6
		スポーツ	2
	選択必修	基幹	2
		人文社会	2
選択	12		
(小計)	(28)		
学部内共通科目	必修	6	
	選択必修	2	
	選択	8	
	(小計)	(16)	
学科固有科目	必修	56	
	選択	24	
	(小計)	(80)	
合 計		124	

△ 注意事項

- A) 教養教育科目の選択必修科目 (基幹科目) の余剰修得単位は、教養教育科目の選択科目 (必修・選択必修以外の科目を指す) として計上される。
- B) 学部内共通科目は原則として総合科目から4単位以上取得すること。
- C) 基礎数学、基礎物理学は1年次のみ履修可能とし、学科固有科目 (選択) として認める。

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3)進級に係る取得単位 (最低) 数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区分		単位数
2年進級	必修科目単位数	14
	卒業要件総修得単位数	30 D)
3年進級	必修科目単位数	30
	卒業要件総修得単位数	62 E)
4年進級	必修科目単位数	60
	選択必修科目単位数	2 F)
	卒業要件総修得単位数	102 G)
卒 業	必修科目単位数	74
	選択必修科目単位数	6 H)
	卒業要件総修得単位数	124

△ 注意事項

- D) 特別措置として、1年次留年生は、2年次配当の実験・実習科目 (物理実験、計算機プログラミング実習、計算機応用実習) 以外の登録を登録制限単位数まで認める。希望者は理工学部教務課へ所定の期間内に申し出ること。
- E) 特別措置として、2年次留年生は、3年次配当の実験・実習・演習科目 (機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、学外実習 (キャリア実践実習)、グローバル人材育成プログラムⅠ・Ⅱ、要素設計、設計製図、材料力学・機械力学演習、熱・流体演習、電子・制御演習、機械システム工学総合演習、セミナー、計算力学実習) 以外の登録を登録制限単位数まで認める。希望者は理工学部教務課へ所定の期間内に申し出ること。

F) 教養教育科目の選択必修の単位は含めない。

G) 原則として、機械システム工学入門、物理実験、計算機基礎実習Ⅰ、計算機プログラミング実習、計算機応用実習、機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、機械製図Ⅰ、機械製図Ⅱ、機械システム工学総合演習、セミナーは全て修得していること。また、材料力学・機械力学演習、熱・流体演習、電子・制御演習については、2科目以上修得していること。

H) 教養教育科目の選択必修単位数4単位 + 学部内共通科目の選択必修単位数2単位

3-1. 卒業・進級の要件 (2015~2017年度入学生)

(1)卒業要件単位 (最低) 数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目をあわせて124単位の修得が必要である。

区 分		単位数	
教養教育科目	必修	仏教	4
		英語	6
		スポーツ	2
	選択必修	基幹	2
		人文 社会	2
選択	12		
(小計)	(28)		
学部内共通科目	必修	12	
	選択必修	2	
	選択	4	
	(小計)	(18)	
学科固有科目	必修	60	
	選択必修	4	
	選択	14	
	(小計)	(78)	
合 計	124		

⚠ 注意事項

- A) 教養教育科目の選択必修科目 (基幹科目) の余剰修得単位は、教養教育科目の選択科目 (必修・選択必修以外の科目を指す) として計上される。
- B) グリーンケミストリー関連科目より、4単位修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。なお、4年次進級時の取り扱い、「進級に係わる取得単位 (最低) 数表 注意事項D)」のとおりとなる。

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3)進級に係わる取得単位 (最低) 数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区 分		単位数
2年進級	取得単位数の要件を設けない	
3年進級	必修科目単位数	40
	卒業要件総修得単位数	62 C)
4年進級	必修科目単位数	78 D)
	選択必修科目単位数	
	卒業要件総修得単位数	98 E)
卒 業	必修科目単位数	84
	選択必修科目単位数	10 F)
	卒業要件総修得単位数	124

⚠ 注意事項

- C) 特別措置として、2年次留年生は、3年次配当科目 (無機合成化学実験、機器分析化学実験、科学技術英語、学外実習 (キャリア実践実習)、グローバル人材育成プログラム I・II、物質化学研究デザイン演習を除く) の登録を年間8単位まで認める。(登録制限単位数に含む)
- D) 必修科目の全てと学部内共通科目・学科固有科目の選択必修との合計単位とする。(教養教育科目の選択必修の単位は含めない)
- E) 次の科目をすべて修得していること。  
物理実験、化学基礎実験、計算機基礎実習 I、無機合成化学実験、有機合成化学実験、物理化学実験、機器分析化学実験、学外実習 (キャリア実践実習) もしくはグローバル人材育成プログラム I・II、物質化学研究デザイン演習

なお、グリーンケミストリー科目の余分に取得した単位 (4科目のうち3科目以上) は、4年次進級の際には「必修科目単位数」と「選択必修科目単位数」を合わせた単位数に換算する。

F) 教養教育科目の選択必修単位数 4 単位 + 学部内共通科目の選択必修単位数 2 単位 + 学科固有科目の選択必修単位数 4 単位

教育課程  
固有科目